



私のこだわりものづくり

しんでん
振電工業株式会社

たなか ゆうじ
田中裕治 代表取締役社長

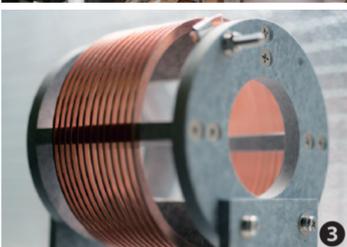
昭和21年東京都杉並区生まれ
平成3年に社長就任
西東京商工会工業部会長

◆住所:西東京市柳沢2-10-23
◆電話:042-466-0571

振電工業 検索



①②社員は13人。この7月にも事業拡大を図り求人募集を行った③固定コイル④耐雷コイル。ほかにも耐雷製品、低周波磁気シールド材、ギア装置なども製造販売する⑤通称ガスタンクの近くにある本社&工場ビル



西東京市のものづくりの炎を絶やささない



西東京市の製造業にはまだまだ底力がある

東伏見稲荷神社近くの青梅街道沿いに本社を構える振電工業株式会社(田中裕治社長)は、ラジオ放送設備と半導体製造装置に必要な高周波電力用部品の製造からシステム設計・装置の製作までを手掛けるものづくり企業である。

昭和35年、先代社長の父が船舶の送信機の製造会社を吉祥寺で創業。広い社屋を求めて昭和51年に西東京市(当時の保谷市)に移転した。しかし、直後にオイルショックが襲う。送信機どころか漁船の造船数そのものが激減してしまう。そのタイミングで経営を引き継いだ2代目の現・田中裕治社長は、前職の電子計測器メーカーで培った技術を生かして、通信機器部品の製造と放送機装置、半導体製造装置の製作に舵を切った。これが功を奏した。半導体の製造が右肩上がりに伸びていく時代に、経営も軌道に乗った。

製造するのは、固定コイルや可変コイル、バリコンと呼ばれる可変コンデンサおよび、それらを応用したシステム装置、ユニット製品など。定形はあるが、一つ一つクライアントから要望を受けて作るオーダー品だ。

田中社長のものづくりのこだわりは、「壊れない製品を作ること」。現在の主力である放送機器の部品やシステムは、不具合が生じると大きな影響を与え、費用も莫大なものとなる。そのため、入念に何度も検査を行う。

「部品と製品を丁寧に作り、ネジの一つ一つを最後までしっかり締める。極意はそれだけ」と田中社長は謙遜するが、ほとんど不具合が生じたことがないのが自慢だ。

かつて隣接する武蔵野市には、中島飛行機の製作所があった。その関係から、西東京市にも大手企業から中小企業まで多くの製造業が集積し、その2代目、3代目の経営者が今でも多いという。が、ここ数十年で大手企業の市外移転が進んだ。製薬会社の三共(現・第三共)や石川島播磨重工業(現・IHI)の工場が閉鎖、最近では住友重機械工業の工場が縮小化された。

「当社が移転してきた当時は、近くに朝比奈機械(現・東芝機械)や本所スプリングの事業所もありました。古くは東鳩製菓(現・東ハト)や協同乳業、東北金属工業(現・NECトキン)の工場もありました。現在存続しているのは、シチズンさんぐらいです。大手企業の移転は寂しい限りですが、それでも西東京市には、まだまだ光る独自技術を持った工場がたくさんあります」と田中社長。実は田中社長は西東京商工会の工業部会長でもある。

製造業は、1社がやめるとお互いの発注先や仲間も失うことになり、他の業種と比べて影響が大きいという。新たな取引先や協力企業を見つけたら、信頼関係を築くにも長い時間がかかる。また、部品や製品を運ぶ距離も遠くなっていくともいう。

「だからこそ発注し合ったり、共同で製品を開発したり、助成金の活用や強い企業が仕事を取って地元が発注するなど、行政も含めて同じ地域にある企業同士が連携して支えあうことも重要です。西東京市の製造業にはまだまだ底力があります。お互いに協力し合ってこの街のものづくりの炎を守り抜いていきたいですね」と、西東京市ともものづくりへの熱き思いを語った。